

ごあいさつ



一般財団法人
全日本大学サッカー連盟
理事長

中野 雄二

「アットホームカップ 2024 第21回インディペンデンスリーグ[同好会]」の開幕を祝し、ご挨拶申し上げます。
大会名になっているインディペンデンスリーグは、そもそも出場機会に恵まれない選手にも公式戦の出場機会を創出することを目的として、現在本連盟の顧問を務めている国士舘大学の澤英雄先生が中心となり2003年度に体育会チームを対象に設立され、翌2004年度には競技志向の強い体育会チームだけでなく同好会チームを対象とした本大会が設立されました。インディペンデンスは、自主、自立、独立を意味する単語で、単純に選手が試合を行うだけでなく、運営や審判等全てを学生が行うことで、学生の自立を促し成長に繋げるという理念が大会名に込められています。これまで多くの学生がその理念のもと、ピッチ内外で挑戦を続けてきました。今年も大会に携わる全ての学生の挑戦が素晴らしい大会を作り上げてくれることでしょう。そして、ここで得た経験を活かして、未来に向かってさらに羽ばたいていくことを心から期待しています。

最後になりましたが、長年にわたりご支援を賜っております特別協賛社のアットホーム株式会社様をはじめ、本大会の開催にあたりご支援、ご協力を賜りました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



公益財団法人
日本サッカー協会
会長

宮本 恒靖

スポーツの秋、アットホームカップインディペンデンスリーグ[同好会]の季節がやってきました。

本大会は2004年、大学サッカーの活性化と選手のプレー機会の創出を目的に創設されました。“同好会サッカー部の日本一”を決する大会として、毎年、実力伯仲の好勝負が繰り返されています。

世界を熱狂させたパリオリンピック・パラリンピック、各会場は観客の大歓声に包まれ、その中で多くのアスリートが素晴らしいパフォーマンスを発揮しました。同好会で活動している皆さんも、世界最高峰のスポーツの祭典を存分に楽しんだのではないのでしょうか。このインディペンデンスリーグでも清々しい戦いが見られることを期待しています。

また、本大会は学生による運営がなされており、大会のプロモーションやリスクヘッジなどさまざまなスキルを習得することができます。そういったノウハウは社会人になってからもいろいろな局面で生かされるでしょう。サッカーを通じて得た経験を、将来、スポーツや社会の発展のために生かしてもらいたいと思います。

近年、同好会カテゴリーからプロへと羽ばたく選手も出てきていますが、これからもそれぞれに合ったスタイルでサッカーに親しみ、スポーツの可能性や価値を広く世間に伝えてほしいと願っています。

最後に、特別協賛社のアットホーム株式会社様、協賛の株式会社ミカサ様をはじめ、全日本大学サッカー連盟の関係者の皆さんに心から御礼申し上げます。



アットホーム株式会社
代表取締役社長

鶴森 康史

私どもアットホーム株式会社は、「Independence League【同好会】」の特別協賛を始めてから今年で12年目となりました。本年も「アットホームカップ」の愛称のもと、本大会は勿論のこと、学内大会や理事会・運営委員会のサポートも含めて、微力ながら皆さんの活躍をお手伝いできることを大変嬉しく感じております。

本大会の大きな魅力は、チームのプライドをかけたハイレベルな戦いもさることながら、日々の鍛練の中で築かれていく仲間との信頼、学生自らがリーグ運営を行うことで育まれていく主体性など、若い皆さんが成長していく姿に、この国の“明日”が垣間見られることです。皆さんがここで得る経験の一つひとつが、これから社会で活躍するための礎となっていきます。そして、社会人としての歩みを始めた時、それはきっと大きなアドバンテージになっていることでしょう。

当社におきましても、1967年(昭和42年)の創業以来55年以上にわたり、「調和(共生)」を企業理念の中心に据えて、働く仲間同士の信頼を最も大切にまいりました。様々な個性を持った人材が集まり、それぞれの持ち味を互いに尊重しながら助け合い、成長することで、しっかり社会に貢献しようと取り組んでいます。これからも、この国の“明日”を担う皆さんを応援・サポートしてまいります。

最後になりましたが、本大会に関係する全ての皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。